



TOPICS

- ✓ もちもちの木は創立20周年
- ✓ 居住支援法人事業がスタートしています
- ✓ もちもちスタッフ それぞれの働き方

デイサービス古田のおうち
介護職員 阿部 直朋さん



巻頭言

失われていく「家族」機能を補うもの

寒中お見舞い申し上げます。2022年の干支は「壬寅」。「壬」は「妊に通じ、陽気を下に妊（はら）む」、「寅」は「蟻（ミミズ）に通じ、春の草木が生ずる」という意味があり、「壬寅」は厳しい冬を越えて芽吹き始め、新しい成長の礎となるイメージがあるのだそうです。

新型コロナウィルスの影響で冬を迎えたような厳しい試練が続いた約2年間から、いまだ手探りの中でも新しい様式による基礎ができあがり前進していく世の中の動向を表しているような気がします。

もちもちの木は昨年、創立20周年を迎えました。「壬寅」の本年は、長年の活動で築いた経験を礎として次の段階へと進みます。

当法人は、介護保険制度の整っていない時代から必要とされていた「住まいと暮らし」を支援してきました。今年度に居住支援サービス事業をスタートさせたことであわせ、これまで継続して行ってきた活動も刷新いたしました。介護ではないちょっとした頼みごとにも対応できる“ふれあいサービス”は、“生活支援サービス”として新たに地域のみなさまと協力体制を整え、地域のコミュニティの再構築を担う試みとなってます。

世代を問わず人々が生活していくうえで必要なつながりとコミュニティは、本来は昔からあるものです。ですが、つながりは、近年より一層希薄になり、コミュニティは弱体化しています。さらに、家族依存の強い日本において「家族」がまともに機能しなくなってきた現状があります。

家族形態は多様化し、貧富や保障、地域などのあらゆる格差によって平均的な高齢者像では語れない、一律的な保障や支援では立ち行かない事態を迎えます。

つまり、機能しなくなった家族を地域のつながりがその代わりを担えるように「家族」という機能を他人で補い合う関係性が必要になってきています。そのためにはいろいろなものが不足しています。つながりがないと何もできないのが今のこの世の中です。



理事長 竹中庸子

“視点を変えても方向を変えても、結局人のつながりでしかない”

これまでの活動からの結論はそこに至っています。

私たちが幸せな暮らしを実現するためには暮らしの中でなめらかに社会とつながり、そのつながりで自分の困らない多様なサービスを生み出し、自分や周りの人が困らないように備えることです。

行政、民間組織、地域でそれぞれ役割の違う中でうまく連携しながら、昔にはあった助け合いのシステムを現代風にアレンジして継続していく。当法人は、その活動を今後も続けてまいります。

みなさまには変わらぬご支援のほどをよろしくお願い申し上げます。

令和3年11月1日 創立20周年を迎えました

もちもちの木は、去る令和3(2021)年11月1日に創立20周年を迎えました。これもひとえに皆様方のおかけと感謝いたしております。法人では周年記念を予定しています。告知はホームページ、Facebookにて行いますので要チェックです！

居住支援法人事業がスタートしています

今年度から居住支援法人として新たな活動がはじめました。火水木金土 10:00~16:00 専従相談スタッフによる対応を行っています。お気軽にご相談ください。
住まいと暮らしの相談室

070-2388-2194



もちもちの木 働き方改革



もちもちの木には多様な働き方があります。希望に応じた雇用形態のほか、育児や介護、地域活動や芸術活動との両立など。今回は、ディサービス古田のおうちの介護職スタッフをご紹介します。

ディサービス古田のおうちで介護職として働く阿部直朋さん。栃木県で生まれ育ち、情報系の大学を卒業後、東京の企業に総合事務職として勤めていました。事務職の経験は20余年。介護業界へ転職したきっかけは、今から5年前に父が亡くなった後、母の故郷である広島へ転居したことに遡ります。

転職を検討する際に思い浮かんだのは、病院で看取りを行った祖母や父のこと。お見舞いには行くものの「ああして欲しい、こうして欲しい」などちょっとした要望に応えてあげることができず、毎回、看護師にお願いしていたことを思い出した、といいます。「あの時、すぐに応えてあげられず何もできていた自分に悔しい思いをしました」と阿部さん。「介護の仕事であれば人の役に立つようなことができるのではないか。それで喜んでもらえれば嬉しい」と、介護業界への転身を決意したそうです。

介護は未経験だったため、まずは資格取得学校にて初任者研修を修了し、コーディネーターから勧められたもちもちの木へ2018年に入職されました。入職当初は週5日勤務でしたが、1年ほど前から高齢の母親の見守りが必要となり週4日に勤務日数を短縮。現在はキャリアアップのため介護福祉士を目指し仕事の合間に縫って勉強中です。

「介護の技術的なことはまだまだこれから学ぶことが多い」という阿部さん。仕事の上では利用者さんも職員も居心地の良い空間づくりを常に意識しているといいます。

「利用者さんには『もちもちの木に来たら、気を遣

わないでね。一日楽しんで帰ってね』という気持ちを常に持っています。

『何かしら嫌なことがあったり落ち込んだりしていたとしても、ここに来たらすべて忘れて一日過ごせる』そんな空間づくりを大切にしたい、という思いが一番強いです。とにかく楽しんで過ごしてもらいたい」と話します。



利用者さんの声かけに応えて雑談を交わす阿部さん（2019年撮影）

また、「介護職は人間関係が複雑だといわれていますが『うち（もちもち）は職員の人間関係は胸を張って楽しいですよ』と言える職場作りを意識しています」という阿部さん。スタッフの仲が良ければ、それを見ている利用者さんもここの「雰囲気は良い」と感じてくれる。そうして安心して過ごしてもらえるのが目標だそうです。

実際に、職員は優しい人が多いそうで「助けてもらってばかりですが、まだまだ助けてもらいたいことも沢山ある。助けてあげられる立場にもなりたいし、習得しなくてはいけないことが多いと感じています」とのこと。「仕事は独りでやるものではなくチームプレイです。ここの職場は職員同士サポートしあえる環境があり動きやすくて仕事がしやすい。そのおかげで楽しく仕事ができます」と話してくれました。

職場のICT化によりスタッフ間の情報共有がスムーズになり業務上のコミュニケーションも取りやすくなってきた、と阿部さん。PCに触る機会の少なかつた職員もいるため、前職の関係からインターネットやPCに関して他の職員をサポートすることもあるそうですが、「忙しそうだから聞きづらい」という雰囲気を作りたくない、と話します。「分からなければ何度も教えるから、分からないままにせず何度もでも聞いて欲しい」そのためにも気軽に声の掛けやすい雰囲気づくりを意識しつつ声かけをしているそうです。

利用者さんや職員の誰に対しても笑顔で接する快活な阿部さん。「一日長いので、仕事の時も含めストレスを溜めずに楽しく一日を過ごせれば。ただとにかくみんなが笑顔でいてくれたらいい」とにこやかに話してくれました。



もちもちの木で一緒に働く仲間を募集中！

詳細はこちら→



特定非営利活動法人

もちもちの木

～優しい心～ 迷ったり 探さぬよう そばにいるよ

【本 部】 土橋のおうち 中区土橋町5-35

TEL : 082 (294) 9346 FAX : 082 (294) 9328

MAIL : mochimochi.npo@gmail.com WEB : <https://mochi2.stars.ne.jp>

◎ 古田のおうち 西区古江新町8-32 TEL : 082 (272) 2701

◎ 庚午のおうち 西区庚午中一丁目9-11※お問い合わせは土橋のおうち